



地域研究実習Ⅰ

(前期 火曜 5・6・7時限)

総合科学部では文・理問わず様々な授業が開講されています。このコーナーでは、総科でしか体験できないようなちょっと変わった面白い授業を紹介します！

「地域研究実習Ⅰ」は地域科学プログラムの専門的教育科目です。担当する先生が隔年で交代されるため、内容は毎年若干異なりますが、『フィールドワークの対象地を設定して計画を立て、事前調査を行ったうえで現地実習をし、最終的にその調査結果をまとめる』というのが基本的な流れです。

今年度の担当は浅野敏久先生で、対象地は、かつては至るところにあった段々畑を現在も残す数少ない場所、呉市倉橋町鹿島地区（広島県）と宇和島市遊子水ヶ浦地区（愛媛県）です。シラバスには、「なぜ段々畑がつくられたのか、それが今どのような状況にあるのか、それについてどのような見直しや取り組みがなされているのか、などを現地を訪れ、関連する地域調査をしながら考えてみたい」とあります。フィールドワークは地域研究の醍醐味！どんなことが行われているのか、早速レポートします！！

☆現地実習の詳しい様子は次ページ以降で！どんなことをしたのかな？

《授業スケジュール（2005年度前期版）》

- 第1講 はじめに：調査テーマの確定
- 第2講 遊子の段々畑について概略説明
- 第3講 調査計画書作成
- 第4講 文献リストとレジュメ作成
- 第5～7講 航空写真から土地利用図の作成
- 第8講 調査項目の検討（調査票の作成）
- 実習 現地実習（呉市倉橋町鹿島地区）
- 第9講 調査項目の検討（調査票の作成）
- 第10講 調査予定などの確認
- 実習 現地実習（宇和島市遊子水ヶ浦地区）
- 第11～12講 調査結果のまとめ
- 特別講 実習報告会

【ある日の授業風景】



◀今日は第5講。航空写真を使った作業をしています。

▶右の写真にある特殊なメガネを使用すると、写真が立体的に見えます。写真を撮りながら白地図に段々畑のある所を色分けしていきます。



◀先生のアドバイスも受けながら色分けをしています。



広島県



実習 1 呉市倉橋町鹿島地区

6月11日、倉橋町鹿島地区での実習が日帰りで行われました。朝早くに土砂降りの雨が降って天候が危ぶまれましたが、次第にいいお天気に！さあ、皆な何を見てきたのでしょうか。

一行は約四時間をかけて西条から鹿島までバスで移動しました。途中で呉港の造船所を見たり、音戸大橋を渡ったりしながら、瀬戸内海沿岸の地域がどのようになっているのか、実習に同行された佐竹先生の解説付きで勉強しました。倉橋島に入ってから「長門の造船記念館」と「倉橋歴史民族資料館」に立ち寄り、倉橋の歴史や昔の人々の生活を学びました。

いよいよ見えてきた鹿島。航空写真で見た印象より、こじんまりとした感じですが、バスが通るのがやっとの細い道。ヒヤヒヤしながらも、運転手さんの絶妙なテクニックで無事に到着しました。出迎えてくれたのは実際に段々畑を耕していらっしゃるおじいさん。畑に案内していただき、どのようにして段々畑は作られたのか、どんな作物を作っているのか、水や肥料はどうしているのかなどを教えてくださいました。

写真からも分かるように、段々畑

は山を拓いてすべて階段にしてみました。実際には山の上の方に登ったのですが、傾斜がかなり急で足場も小さく、とても大変でした…。

鹿島では、現在、行政による段々畑の保存施策や、地域の人々による保存活動などが行われていません。そのため段々畑の存続は、耕作する人がいるかどうかですべて決まってしまう。また島に住んでいるほとんどの人が高齢者。後を継ぐ人がいないため、島内では手が入られなくなつて雑草が生い茂つたり、石垣が崩れてしまつている段々畑があちこちに見受けられ、少し寂しい感じがしました。

また話を伺つたおじいさん自身も「段々畑を残さねば」という義務感や使命感で耕作をしていらつしゃるようではなく、『外部から段々畑の保存を考えている人』と『実際にそこで生活している人』のギャップを感じました。





実習2 宇和島市遊子水ヶ浦地区

6月25日・26日、1泊2日の日程で遊子水ヶ浦地区での実習が行われました。今回は広島県を飛び出し、現地で宿泊もするので、前回の実習とはまた違った感じです。さて、一体何が私たちを待っているのでしょうか。

今回は一泊二日ということで、皆のソワソワ感も高めです。でも朝七時出発という厳しいスケジュールのため、寝ぼけ眼の人数多し。しまなみ街道を通って愛媛県入りしたのですが、その頃になるとバスの中にはスヤスヤとした空気が流れていたのです。でも、しまなみ街道の壮大な橋々は一見の価値あり！

いよいよ愛媛県に突入した一行は、昼過ぎに宇和島市遊子の水ヶ浦という集落に到着しました。鹿島の時と同じく、ここに至るまでの道のりも細くて険しく、なかなかスリリングでした。また海岸線が複雑で突然海が現れたり、ミカン畑があちこちにあったりと、この地域の独自性を色々とここで感じました。

水ヶ浦で段々畑を案内してください。現地の段々畑を保存する活動をしている「段々畑を守る会」(以下「守る会」)の副会長の方です。畑をまわりながら色々な話をしていたのですが、この日はうだるような暑さ！皆な額に汗を浮かべな

がら、段々畑を上ったり下ったりしていきました。段々畑の上からの眺めは本当に美しく、海の青と山の緑、そして段々畑が鮮やかなコントラストを成していました。でも、実は昔は遊子周辺の山々すべてが段々畑だったのです。それと比べると今は本当に水ヶ浦だけ辛うじて残っているという状況なのです。

鹿島の段々畑と異なり、水ヶ浦のそれは柵やビニールが全くなく、非常に整えられている印象を受けるのが写真から分かるでしょうか。水ヶ浦の段々畑は文化庁からも残すべき景観に指定されており、行政も積極的に保存を促しています。「守る会」も、段々畑を所有している人すべてが加入している訳ではないのですが、『だんだん祭り』というイベントを行うなど段々畑の保存活動を活発に行っています。また主産業として真珠やハマチ・タイの養殖業があり、若い人が比較的多いことも鹿島との大きな違いです。

「守る会」の方の話によると、





段々畑では主に馬鈴薯を育てているのだそうです。石垣があるため夜になっても熱を逃さず、雨が降っても石垣から水が出ていくため、とても美味しい、とろけるような馬鈴薯が出来るとのこと。収穫は3月下旬から四月上旬のため、残念ながら私たちは口に出出来ませんでした。...

さて、この日の夜は水ヶ浦に唯一ある民宿に宿泊しました。晩ご飯は煮魚・鯛飯・お刺身・貝の網焼きと、まさに海の幸づくしで、この地域が水産業ともにあるのだということを感じました。

二日目は、一日目に案内していただいた「守る会」副会長さんに、会他のメンバーを紹介していただき、四つのグループに分かれてインタビューを行いました。事前に質問表を用意していたのですが、実際に話をしていると、質問を切り出すタイ

ミングがなかなか見つからなかったり、変な間があいてしまったり...。直に話を聞いていくことの難しさがよく分かりました。

インタビュー後、漁船で海に出てハマチ養殖の様子を見せていただきました。船から見ると段々畑は視界を遮るものがないせいか、またちょっと変わった感じがします。海に出る人たちは毎日この景色を見ているのだと思うと、何だかしみじみとした気持ちになりました。

港に戻るとちょうどお昼時。先程インタビューさせていただいた方々も民宿に集まって、わいわい賑やかに昼食をいただきました。本当に盛り上がり、帰る直前まで話を続けている人もいるほどでした。

その間、一部の人はもう一度段々畑に行って、畑を測量する作業をしました。一段一段高さ

と幅を測り、大学に戻ってからグラフ化した結果、鹿島の段々畑と比べて、水ヶ浦の段々畑は上方と下方で奥行きにあまり差がないことが分かりました。同じ段々畑でも地域によって違いがあるようです。

そして午後三時ごろ、私たちは水ヶ浦を出発し、帰路に着いたのでした。民宿のおかみさんや「守る会」の方々のあたたかい見送りを受けながら...

今回実習に参加したことで、地域研究をしようとする際に現地を自分の目で見て、直に人と会って話を聞くことの大切さを痛感しました。机の上で議論を交わすことも意味のあることですが、それだけでは見えてこないものが多々あります。

地域に興味のある人は、ぜひこの授業を受講し、フィールドワークの楽しさ・難しさを知ってもらいたいと思いました。

(担当 15生 青森美美)

